柳ケ瀬エリアプラットフォーム Vision Meeting Report #4

集まり、つながり、動き出す。

#1 7.15.Wed./ #2 8.19.Wed. /#3 9.16.Wed. / **#4 10.7.Wed.** / #5 11.4.Wed. / #6 12.2.Wed.

ビジョンミーティングとは

エリプラに関わる全ての人、事業者が参加できる広く開かれた場とし、事業会議での意見や取り組みを共有し、その他の専門的な事項も含めビジョンの方針、盛り込む内容を議論します。
議論を深めつつ進めるため、各回の議題や論点は戦略検討委員会で整理し、提案します。
ここでの議論の内容を取りまとめ、推進会議を経て、柳ケ瀬エリアのビジョンを策定します。

当日のプログラム

第３回ビジョンミーティング　開催概要
日　時：2026年10月7日（水）19：00～21：00
会　場：ロイヤル劇場ビル
参加者：28名
テーマ：第１部　各要素の基本方針と取組内容の検討
　　第２部　各要素の空間的な取組内容の検討



第１部：各要素の基本方針と取組内容の検討		第２部：各要素の空間的な取組内容の検討	
19：00	前回の振り返り	20：05	エリアの空間検討の参考（3Dの共有）
19：15	議論１のポイントのご説明	20：15	議論２のポイントのご説明
19：30	グループ議論１ 「各要素の基本方針と取組内容」	20：20	グループ議論２ 「各要素の空間的な取組内容」
20：00	全体共有	20：40	アドバイザーの方からのコメント

エリアビジョン策定の進め方（予定）

柳ケ瀬エリアのビジョンは以下の流れで広く多様な方々との議論を積み重ね、9月末には骨子を、12月には本編を取りまとめる予定で取り組んでいきます。

第１回 7/15水	＞エリアビジョンの意義の共有 ・検討の前提についての認識共有 ・これまでのビジョンの経緯と概要	第４回 10/ 7水	＞個別テーマの具体的な検討 ・各要素の基本方針の検討 ・各要素の取り組み内容の検討
第２回 8/19水	＞ビジョンの構成案の検討 ・エリアとして大切にしたいこと ・柳ケ瀬が目指す姿のイメージ共有	第５回 11/4水	＞ビジョンの本編案の検討 ・各要素の取り組み内容の検討 ・取り組みの仕組みと体制の検討
第３回 9/16水	＞ビジョンの骨子案の検討 ・目指す姿を構成する要素の共有 ・各要素のあるべき姿と現状の共有	第６回 12/2水	＞ビジョンの本編案の検討 ・取り組みの仕組みと体制の検討 ・取り組みのステップの検討
ビジョン骨子　完成		ビジョン本編　完成	

次回予告

#5 柳ケ瀬エリアプラットフォーム ビジョンミーティング
日　時：2026年11月4日（水）19：00～21：00
会　場：ウゴクテ　すこやか交流室1、2
テーマ：取組内容の検討、取組の仕組みと体制の検討

各要素の基本方針と取組内容の検討

第１部では、これまでに整理した「柳ケ瀬らしさの6つの構成要素」「3つのエリア」「3つの軸」をもとに、ビジョンの実現に向けた重点事業の方向性と、その具体的な取り組み内容について議論しました。

〈各テーマのグループ議論のトピックとあがった主な意見〉

多世代の記憶が積み重なる
子ども・若者・高齢者
多様な世代が暮らせるエリアとするために必要なサービス、空間、世代間の接点をつくるための仕掛けを考える

- **居場所**：お金がなくても、自由に居てよい場所を、商店街の中につくるとよい。
- **滞在空間**：アーケード下にソファを置くなど、多世代がくつろげる環境があるとよい。
- **子どもの拠点**：ツナグテを、商店街や地域とつながる拠点にしていくとよい。

自ら動き、商いに挑む
空き地・空き店舗
商いの土台となる不動産の観点から、空き地・空き店舗を有効に活用していくために必要な取り組みを考える

- **貸し手支援**：貸せない店舗の改修にも補助を広げ、貸せる物件を増やすとよい。
- **事業者支援**：創業者が孤立しないよう、同業者と話せる場所があるとよい。
- **受け皿づくり**：業種の誘導や税制優遇で、事業者が柳ケ瀬に残れるとよい。

個性と多様さを受け入れる
表現活動・夜の活動
多様な表現活動の舞台となるために活かせそうな空間、企画、それらをサポートするための仕組みを考える

- **カルチャー**：ヒップホップなどの文化を、前向きに格好よく発信していくとよい。
- **余白**：不完全さや関わりしろを活かし、挑戦したい人を受け止めるとよい。
- **夜の楽しみ**：夜ならではのくだらなさや、良い意味の夜の案内所があるとよい。

人情と顔の見えるつながり
住まい方・働き方
人同士の繋がりが持続し、また新しく生まれるエリアとして必要な住まい方や働き方を実現するための取り組みを考える

- **住まい**：家族で住める中規模・中価格帯の住宅を増やしていくとよい。
- **安全・安心**：子どもや障がいのある人も、安心して暮らし働ける街を目指すとよい。
- **交通整理**：入口の制限や路面の区分けで、車の動線を明確にするとよい。

歩いて巡り、発見できる
歩行者優先の交通
歩行者に優しいエリアを持続・発展させるために必要な交通のネットワークやルール、新たな移動手段を考える

- **共存**：車と歩行者は現状でも一定程度共存できており、ルールを整理するとよい。
- **自転車**：通り抜けを防ぐため、滞留できる場所や駐輪場を整備するとよい。
- **規制**：時間帯別の駐車規制や車寄せゾーンなど、柔軟な運用を考えるとよい。

環境と共生する持続可能なエリア
水と緑の環境
環境と共生するエリアとなるために活かせる資源とそれを顕在化し体感できる環境づくりのために必要なことを考える

- **緑陰**：アーケード撤去後は、樹木の木陰を活かした通りにしていくとよい。
- **植栽**：建て替え時のセットバックで植栽空間を確保し、市と地域で守るとよい。
- **日除け**：スライド式テントなどで、夏の暑さをしのげる工夫があるとよい。

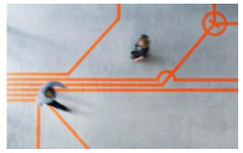
空間的な取組内容の検討

第２部では、第３回のビジョンミーティングで出た意見を反映した、北部・西部・南部の各エリアとエリア全体の空間イメージを共有しました。あわせて、社会実験を重ねながら段階的に空間を変えていく考え方や、地域の資源・産業とつながる仕組みづくりについて、国内外の事例を交えて紹介しました。その後、６つのテーマごとに、拠点や滞在空間、路面・サイン、水と緑の活用などの視点から、それぞれの取り組みを空間としてどう実現していくかについて議論しました。

事例：来街者にわかりやすいサインとしての舗装デザイン





事例：まちに溶け込むデザインの短時間休憩用ベンチ


COREDO室町テラス（設計：ランドスケープ・プラス）

恵比寿ガーデンプレイス（設計：ランドスケープ・プラス）

事例：水を活用してまちを冷やす取り組み


フランス・ボルドーのブルス宮殿前広場

馬場川通り（設計：ランドスケープ・プラス）

〈グループ議論の中であがった主な意見〉

多世代の記憶が積み重なる

ベンチ：視線のずれや緑の囲いを工夫した、座りやすい滞在空間
名物：トレビの泉のような、思わず立ち寄りたくなる仕掛け



人情と顔の見えるつながり

維持管理：植栽は手間の少ないものとし、福祉関係者や企業とも協力して維持
顔の見える関係：出店者だけでなく大家とも、顔の見えるつながりをつくる



自ら動き、商いに挑む

駐車場：南庁舎跡を大きな駐車場にし、エリア内の小さな駐車場を集約する
空き地：換地で土地をまとめ、使えなかった空き地を活かす仕組み



歩いて巡り、発見できる

サイン：迷わずまちを巡れるよう、通りや商店街ごとのサインの情報を共通化
待ち合わせ：初めての人でも目的地にたどり着け、待ち合わせできる街に



個性と多様さを受け入れる

公共空間：視線が重ならないベンチの配置など、滞留したくなる工夫
足元：蛍石の舗装や通りの曲がりを活かした、歩いて楽しい通り



環境と共生する持続可能なエリア

緑化：組合のエリアごとに緑を1割確保し、エリア再生の拠点をつくる
水：豊富な地下水を菜園や冷房に活かし、柳ケ瀬ブランドとして育てる



主催：柳ケ瀬エリアプラットフォーム
（事務局：岐阜市中心市街地みらい戦略課 058-214-3768）